

柏木教会月報 3月号

東京都新宿区北新宿 3-1-18

03-3368-2156

牧師 大浦 勝

救いの約束

創世記九章八—一七節

牧師
大浦勝

「わたしがあなたたちと契約を立てるならば、二度と洪水によつて肉なるものがことごとく滅ぼされることはなく、洪水が起つて地をほろぼすことも決してない。」（一一節）

務をこの分に譲せられる（ナリ）

創世記六章五節以下には洪水物語が記されている。これによれば、神はこ自分が造られた世界に悪が満ちていることに、深く心を悩まされる。「王は地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になつて、地上に人を造つたことを後悔し、心を痛められた」（六・五～六）。ここには人間の悪に対する神の深い苦惱と悲しみが生々しく語られている。神はこの世界を極めて良いものとして造られたのであるが（一・三二）、人間によって罪が入り込み、それがますますはなはだしいものになつていったのである。

神はその深い悲しみの中から、造られたすべてのものを滅ぼすことを決意される。神はノアに命じて箱舟を造らせ、ノアとその家族、および箱舟に入った動物以外のすべてのものを、全地を覆う激しい洪水によって滅ぼされる(七・一一～一四)。こうして箱舟の中に逃れたものだけが助かる。

明らかにされたが、この厳しいさばきによつても事態は変わらなかつた。「もし人がそのおこないにふさわしく扱われるべきであるとすれば、毎日毎日洪水が必要であらう」（カルヴァン）。この世界は相變らず罪と惡に満ちてゐる。しかし、神は深いあわれみによつてこれを忍び、わたしたちと共に歩み、わたしたちを支えようとする。わたしは、この度したよに生き物をことごとく打つことは、「一度とすまい」（ハ・ニーハ）と言われ、この世界とそこに住むすべてのものと契約を結び、これを守る義務を「自分に課せられる（九一一〇）。

繰り返される戦争、各地に起ころるテロ・暴動・社会不安、突然襲いかかる自然災害、留まるところを知らない環境破壊等から、わたしたちは大変危険な世界に生きていることを知つてゐる。あたかもこの世界は滅びに向かつて進んでゐることである。しかし、この世界に起ころるはなはだしい悪にもかかわらず、神はあわれみをもつてこれを支えていて下さり、そこに住むすべてのものを御心に留めて、これをお忘れになることはない。

この神のあわれみはキリストにおいて決定的なかたちで現された。キリストは「自分の受ける苦難と死を「洗礼」と呼んでおられるが（マルコ一〇・二八）、洗礼とは水に沈められて死ぬことである。キリストは、わたしたち罪人のために、わたしたちに代わつて、罪に対する神のさばきを「自分」の上に引き受け死ぬ者となつて下さつた。こうして神は洪水後に結ばれた救いの契約に従い、わたしたち罪人を滅ぼすことをされず、わたしたちを生かし、「自分」との永遠の交わりに招き入れて下さる。